

研究成果と今後の課題

○成果 ●課題

(1) 意欲(書くことへの関心・意欲・態度)

- 意識調査の結果は下がったが、しかし、最後まで書く態度や、意欲はあった。
- 共通題材を扱うことで、見通しがもてるようになったので、集中して取り組めるようになり、文章を書く能力が高まった。
- モデル文・チェックシートを使うことで、文章に合う表現を選び、「自分でも書ける！」と感じる児童が増えた。
- ポイントを絞った指導のおかげで段落・構成・文末表現など、意味と結びついて理解していた。
- 「書きたい！」と思えるように、児童への動機付けを明確にする。
〈手立ての例〉題材の選択、導入の工夫、相手意識をはっきりさせる。

(2) 技能(課題設定や取材・構成・記述・推敲)

- 教える技能を焦点化し、モデル文を示したことで、書かせたい表現が児童に身に付いた。
- マインドマップを活用することで、自分の考えが明確になり、文章を構成することができた。
- カードに書いて構成を考えることや一字下げシールを使って書かせた経験は、その後の書く活動につながり、有効であった。
- 共通題材と、選択題材と2回書いたので定着する様子がみられた。
- 自分が書いた文章を推敲することが苦手である。観点を明確にし、書いた文章を声に出して読み直す習慣を付ける。
- 学年内で身に付けた技能を、次の学年で活かせるように、系統性をもたせる。

(3) 交流

- グループ学習にしたことで、同じ題材でも様々な表現があることに気付いた。
- 友達から学ぶ態度が高まった。
- 学年を越えて作品に触れ合えるような掲示場所を設ける。
- 技能面に時間をかけると、交流の時間が十分に取れなかった。

(4) その他

- 日常的な活動に学年として取り組み、成果が上がった。
- 〈次年度に向けて〉
 - ① 全校で一斉に取り組める日常的な活動を行う。
 - ② モデル文作成の観点を明確にする。
 - ③ 系統性の整理が必要…学習内容・学習方法。